

提出日： 2024 年 6 月 28 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
商学部	教授	妹尾 剛好

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2023年4月 1日 ~ 2024年3月31日 2. 2023年9月 1日 ~ 2024年8月31日 3. 2023年4月 1日 ~ 2023年9月20日 4. 2023年9月21日 ~ 2024年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	本研究では組織学習を促進する「システム」としてのマネジメント・コントロール(MC)の実態を明らかにすることを目的として、主につぎの3つの研究活動を実施した。第1に、予算管理と目標管理というMCのために用いることのできるツールに関する文献レビューを実施した。第2に、2018年に実施した調査を拡張するかたちで、2023年11月に東京証券取引所プライム市場上場企業1,658社に対し、主として予算管理と目標管理の実態を明らかにすることを目的とした質問票調査を実施した(回答数248社(回答率15.0%))。第3に、2018年と2023年に実施した調査のデータの分析を通じて、組織学習とMCの関係についての実態を明らかにした。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	文献レビューの研究成果の一部は日本管理会計学会 2023 年度年次全国大会自由論題報告、2018年に実施した質問票調査に関する分析の成果の一部は、日本原価計算研究学会第49回全国大会自由論題報告にて発表した。後者の分析の研究成果は、下記の論文としても発表している。 妹尾剛好・横田絵理(2024)「日本企業におけるマネジメント・コントロール・ツールの実態：中期経営計画、予算管理、目標管理に焦点を当てて」『三田商学研究』66(6): 77-99。 妹尾剛好(2024)「重視するマネジメント・コントロール目的の違いが目標管理の運用と設計に与える影響に関する実証分析」『原価計算研究』48(2): 近刊。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	2023年に実施した調査のデータ分析の結果について、学会報告や学術論文のかたちでまとめていく。現在、日本組織会計学会 2024 年度年次大会統一論題および日本会計研究学会第83回全国大会統一論題にて報告予定である。これに加えて、組織学習とMCの関係についてのインタビュー調査も実施していく。現在までに東京証券取引所プライム市場上場企業3社に対し、計10回のインタビューを実施している。このインタビュー調査の分析結果も学会報告や学術論文のかたちでまとめていく。質問票調査とインタビュー調査の分析を組み合わせ、組織学習とMCの関係をより詳細に明らかにしていく。